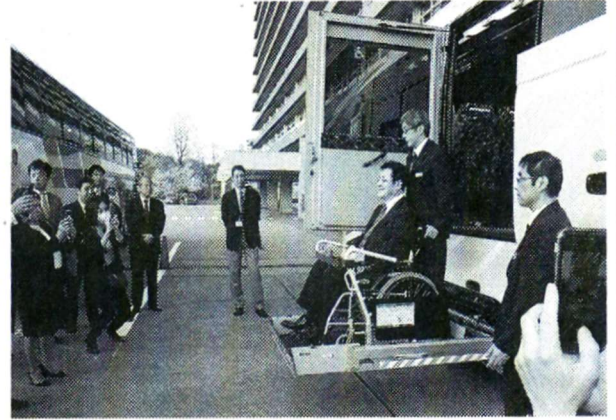


法案審議 車いす目線で

衆院国交委メンバー JPNタクなど視察

① JPNタクシーを視察・試乗する衆院国交委のメンバー。車外・手前右端は国交省の藤田官房長。左隣がトヨタの粥川氏(車いすに座り、リフトの昇降を試す西村委員長(3月28日、東京・霞が関)



衆院国土交通委員会の西村宏委員長(自民、元国交副大臣)らメンバーは3月28日、東京・霞が関の国交省一階駐車場で、車いすのまま乗り込めるユニバーサルデザイン(U D)車両のトヨタ「JAPANタクシー(JPN TAXI)」と日野のリフト付き観光バス「セレガ」を視察、試乗した。JPNタクシーに対し、「乗り心地が良い」「車いすの乗り降りはスムーズ。不安はない」など絶賛する声が聞かれた。

「車いすの乗り降りはスムーズ。不安はない」など絶賛する声が聞かれた。バリアフリー法改正案(2月9日閣議決定)の審議入りを前に、地下鉄のホームドア、バス・タクシー車両など現場を確認した。同案は公共交通事業者に車いす乗降用車両・施設の整備や従業員の教育・訓練などの計画作りを義務化する内容。2020年東京五輪・パラリンピックに向け、ハード・ソフト一体の対策を強化する。

自民の金子恭之、盛山正仁、立憲の矢上雅義、希望の小宮山泰子の各氏ら10人ほどが参加した。トヨタ自動車車の粥川宏チーフエンジニアと日野自動車車の田村是也バス部総括グループ主管が車の特長や車いす利用者の乗せ方を説明した。国交省の藤田耕三官房長、島雅之自動車局次長、金指和彦

旅客課長らも応対した。金子氏はJPNタクシーの車いす用スロープ板の設置に関し、「乗務員から大変だと聞いている。説明用のDVDの配付だけでは難しい。使えないと意味がないので、しっかりと研修を」と求めた。粥川氏は「スロープの付け方が一目で分かるような表示を検討している」と答えた。

セレガでは、西村委員長らが順々に車いすに座り、リフトを使って車内に乗り込んだ。リフトの上昇を見て「意外と速い」との声もあった。田村氏は「パラリンピック対応をはじめ、バリアフリーに即したリフト

付きバスの普及に尽力を」と要望した。日本バス協会の梶原景博理事長らが見守った。

一行は同日、先立って埼玉県川越市を訪れ、空き店舗の再生などまちづくりの取り組みを見て回った。

◇ 全国ハイヤー・タクシー連合会(川鍋一朗会長)とトヨタ自動車は、JPNタクシーの改良に向けた初の意見交換会を3月28日、市ヶ谷の自動車会館で開いた。開発に協力した全タク連の川村泰利技術環境委員長(宮園自動車)、トヨタの粥川宏チーフエンジニアらが顔を合わせた。

車いす利用者の乗車に時間がかかる問題や、自動ブレーキによる車内事故の可能性などがテーマになった模様。今後も会合を重ねる

よつで、粥川氏は「皆さんしていきたい」と本紙に話の意見を聞き、改良、改善した。